

## 解放子ども会のうた

- |  |  |
|--|--|
| 1 部落完全解放の<br>決意をこめた荊冠旗<br>かかげてあゆむ 仲間たち<br>ああ われらは<br>解放子ども会  | 作詞 <small>さわらぎ</small> 沢良宣子ども会<br>作曲                               |
| 3 自由と平等ねがいつつ<br>完全解放するまでは<br>みんな団結がんばろう<br>ああ われらは<br>解放子ども会 | 2 差別迫害そのなかで<br>たたかいつづけたピオニール<br>かがやく歴史を うけついで<br>すすむわれらは<br>解放子ども会 |

### 〈注釈〉

けいかんき 荊冠旗…水平社運動の象徴であり、その思想を的確に表している。現在も解放運動の象徴となっている。

全国水平社の設立（1922年）に参加し、水平社宣言の起草者である西光万吉の考案したもの。

「犠牲者がその烙印を投げ返すときが来たのだ。殉教者が、その荊冠を祝福される時が来たのだ」（この水平社宣言の一部）に由来する。

荊冠は、キリストが十字架の上でかぶせられたいばらの冠（受難と殉教の象徴）である。いばらのとげは、外にだけでなく、内にも向かって鋭くとがっており、差別者を糾弾することを通して、何よりも自らを正す、人間としての自覚と言う意味がこめられている。

現在は働く者の象徴として赤地にかえ、左上に荊冠を配置し、自らの手で必ず解放するという意味で希望の星を白または黄色で入れている。

ピオニール…ロシア革命（1917年）時代の青少年活動の名称。国際社会では青少年の校外教育の一つとして、ボーイ・ガールスカウトの活動が行われていた。ロシア革命ではこれとは異質の青少年活動を設立した。

これは、労働階級が支配階級からぬけだし、自分たちの力で社会を動かしていこうという、活動の一環として行われた。日本でも、共産主義が伝えられる中で、全国農民組合、全国水平社の活動によって組織された。

1928年から始まり1938年まで続くが、戦争の影響でピオニールの活動は終わった。